

石川の巨樹

表-1 石川県の天然記念物(樹木)一覧 (国指定)

樹木名	所在地	指定年月日
栢野の大スギ	加賀市山中温泉栢野ト49	昭和3年11月30日
御仏供スギ	白山市下吉野	昭和13年8月8日
八幡神社の大スギ	加賀市山中温泉菅谷へ114	昭和18年8月24日
篠原のキンメイチク	加賀市篠原町	昭和2年4月8日
松月寺のサクラ	金沢市寺町5-5-22	昭和18年8月24日
堂形のシイノキ	金沢市広坂2-1	昭和18年8月24日
太田の大トチノキ	白山市白峰	平成5年4月6日
鹿島森	加賀市塩屋町	昭和13年8月8日
気多神社社叢	羽咋市寺家町7-1	昭和42年5月2日
須須神社社叢	珠洲市三崎町寺家ツ部	昭和50年6月26日

加賀市にある国指定天然記念物の大スギ

加賀市の旧山中町には、国の天然記念物に指定されているスギが2本あります。その2本とは、栢野の大スギと菅谷八幡神社の大スギ(三又杉)です。県内の国指定天然記念物のうち樹木に関するものは10件(表1)あり、スギではこの2本以外に白山市下吉野の御仏供スギだけで、3分の2が加賀市にあることになりました。

そこで、石川県巨樹の会が年2

回発行している「巨樹いしかわ」を遡って、この2本の記述がないか調べてみました。

すると、第4号には加賀市文化財審議委員の堀野末男氏(当時)が、「加賀・江沼の巨樹巨木林」と題し、2本の推定樹齢に関する記述がありました。

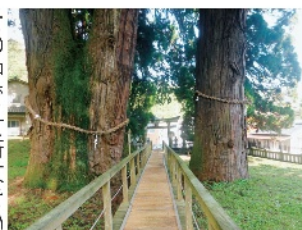
それによると、栢野の大スギは、樹齢920〜1450年、菅谷八幡神社の大スギは、770〜1210年と推測されるとのことです。いずれも約800年前、源頼朝の鎌倉幕府時代にはすでに存在していたことになりました。

そう考えると、平成29年に当会は「第30回巨木を語ろう全国フォーラム」を金沢市で開催した訳ですが、本県で初めてとなる記念すべき第3回全国フォーラムが加賀市で開催されたことは納得できます。

さらに調べてみると、本誌22号と33号では、探訪会で訪ねた際の参加者の感想が書かれていました。さて、それでは2本の大スギがいかに素晴らしく見事であるかを紹介します。

◆栢野の大スギ

金沢方面から山中温泉を大聖寺川沿いに進むと栢野町があります。



栢野の大スギ

やがて右手に見える菅原神社の境内には4本のスギの巨樹がありますが、

その中で一番大きいのが幹周8.9m、樹高36.0mのスギで、昭和22年の石川国体の際、昭和天皇がご覧になったことから「天覧の大杉」と呼ばれています。

境内には、かつて石段の参道がありました。平成15年に「浮橋参道」という木道を設置し、参拝者等の根踏みによる樹木への影響を最小限にするなど、近年、巨樹の環境保護に対する地域の方々の意識が高まっています。

また、昭和58年に本県で行われた全国植樹祭において、このスギから採取した種子を昭和天皇がお手播きされたことでも知られます。そして、ここを訪れる際は、是非向かいにある「栢野大杉茶屋」で、ヨモギがたっぷり入った草だんごをいただくことをお勧めします。

◆菅谷八幡神社の大スギ

山中温泉菅谷町の鎮守様である八幡神社には、応神天皇が祀られており、拝殿の右手前奥にひとき

わ大きく幹が三又に分かれたスギがそびえたっています。幹周7.5m、樹高40.3mで、地上約3m地点で3本に分かれており、太い幹の部分には大きなしめ縄が巻かれ大事に保存されています。



菅谷八幡神社の大スギ

このスギにも興味深い話が伝説としてあり、境内の案内板には「昔々、村人たちが大杉を伐って帆柱にしようかと相談したが、翌日お宮様へいってみると、三つの枝に分かれ、帆柱にはならない杉になっていたという」と書かれており、伐採を免れたスギはその後すくすくと育ち巨樹になったという訳ですね。

今回は、加賀市内にある2本のスギの巨樹を紹介しましたが、昨年十一月に訪れた時は、どちらもまだまだ元気な姿を見せていました。

ただ残念だったのは、事前の調査不足で「栢野大杉茶屋」がお休みの日で草だんごを食べることができなかったことでした。

(県巨樹の会 間明弘光)